

神

憑

き

神憑き



みっちゃんへ。
げんきかな？

何かこここのところ天気が悪いよね。
私もお天気雨みたいな気分。

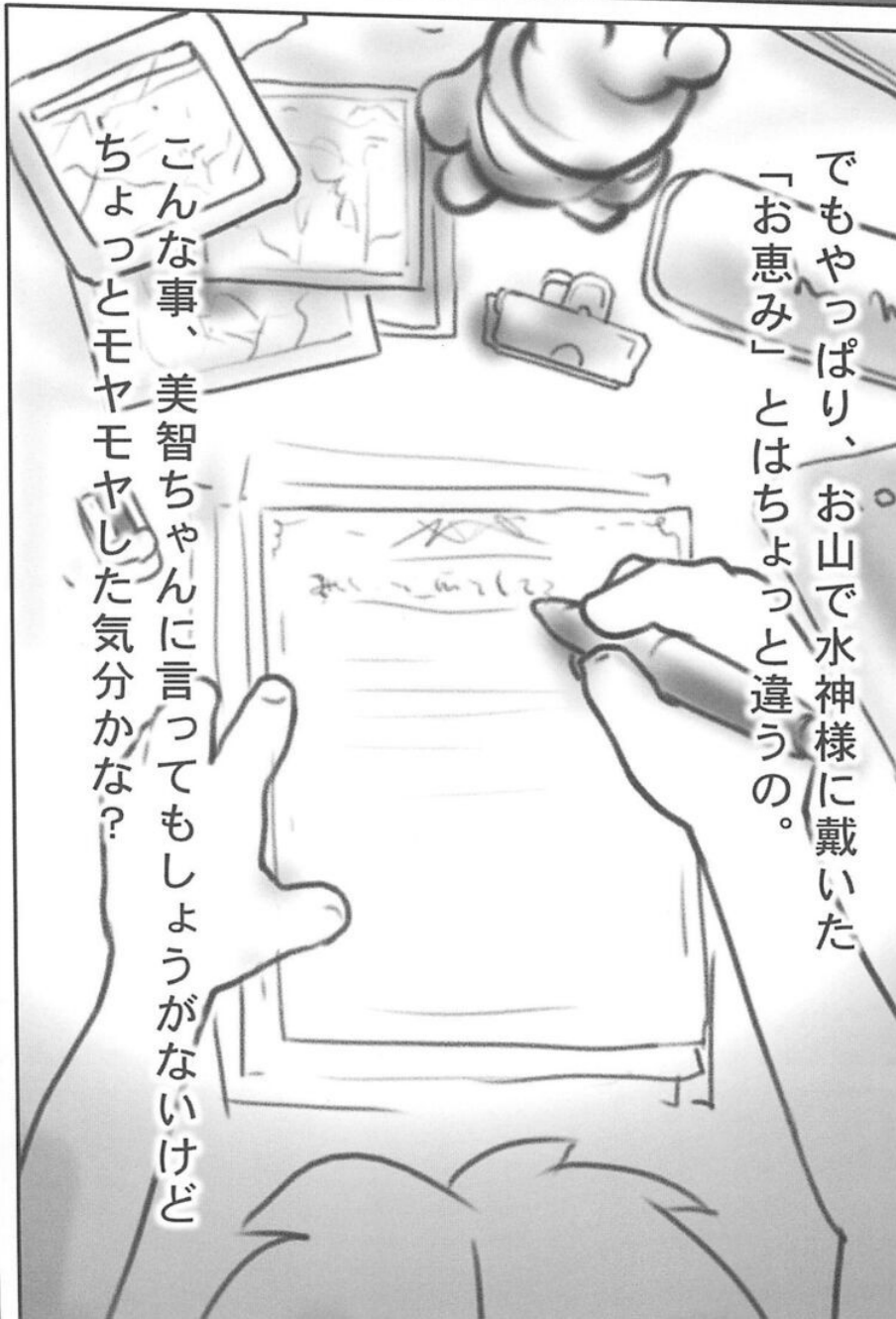
相談にのってくれてありがとう。

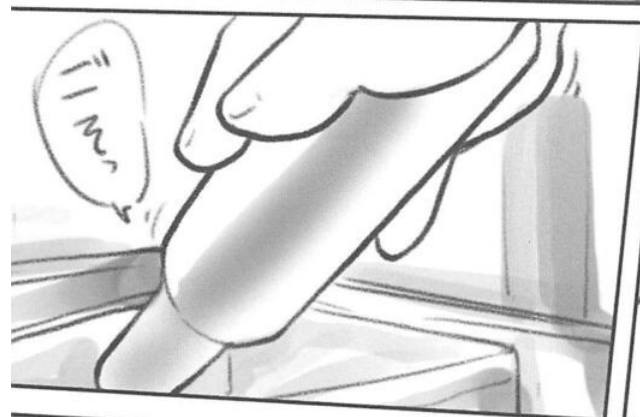
プレゼントのおもちや、
ステキだよ♡

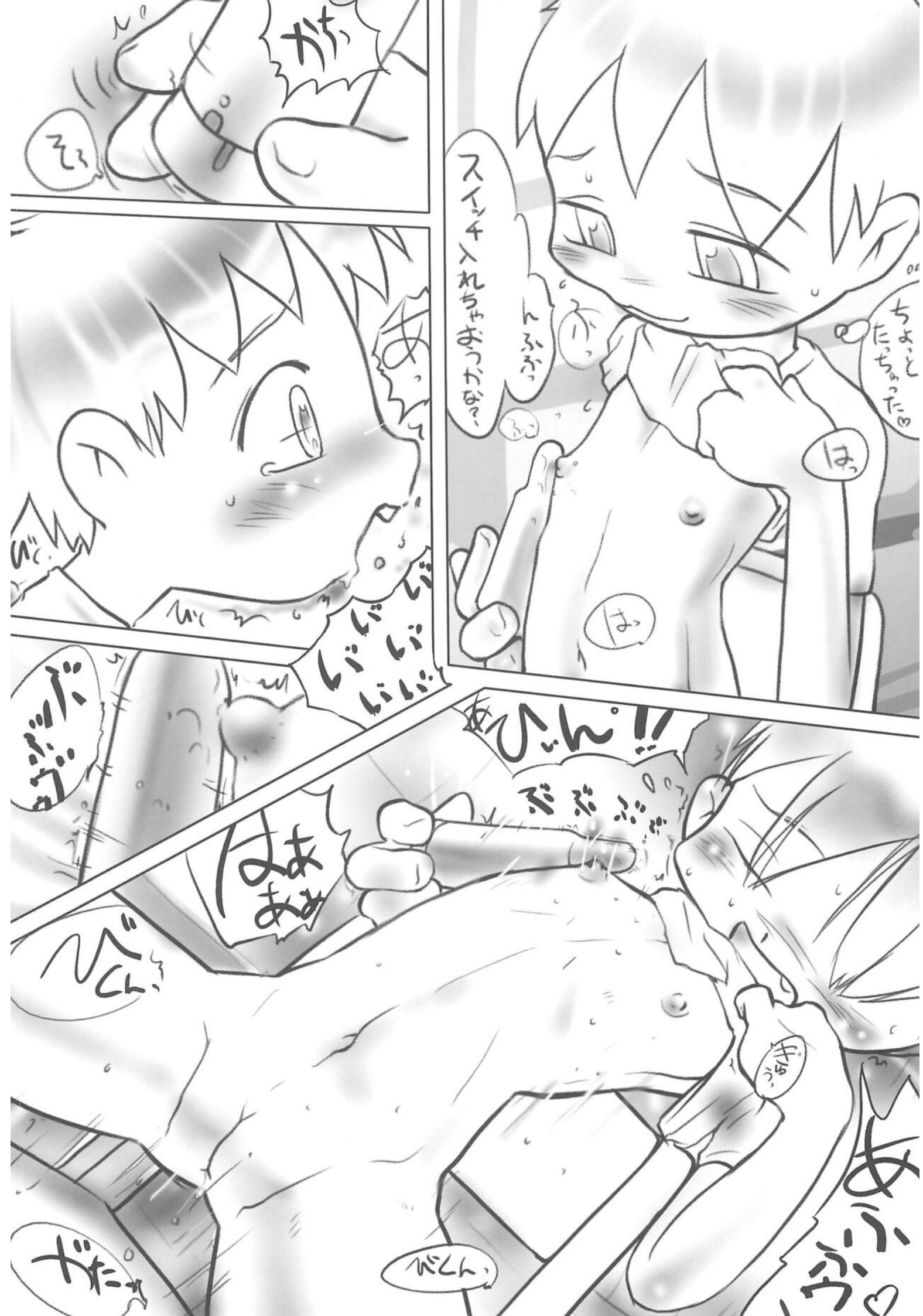
最初はビツクリしちゃった☆

でもやっぱり、お山で水神様に戴いた
「お恵み」とはちよつと違うの。

こんな事、美智ちゃんに言ってもしょうがないけど
ちよつとモヤモヤした気分かな？









で...でんち
新しいのだから
今日からします...

も...
もう...
い...か...

硬くなること
よけい感じ
ちゅ...☆
あ...

ニ...
ニ...
ちにも...

あ...
あ...
おっや
こんな
出ちた...♡

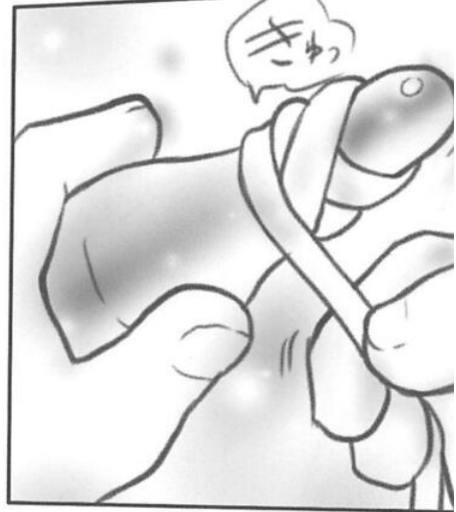
や...
や...
だ...

は...

と...
ま...

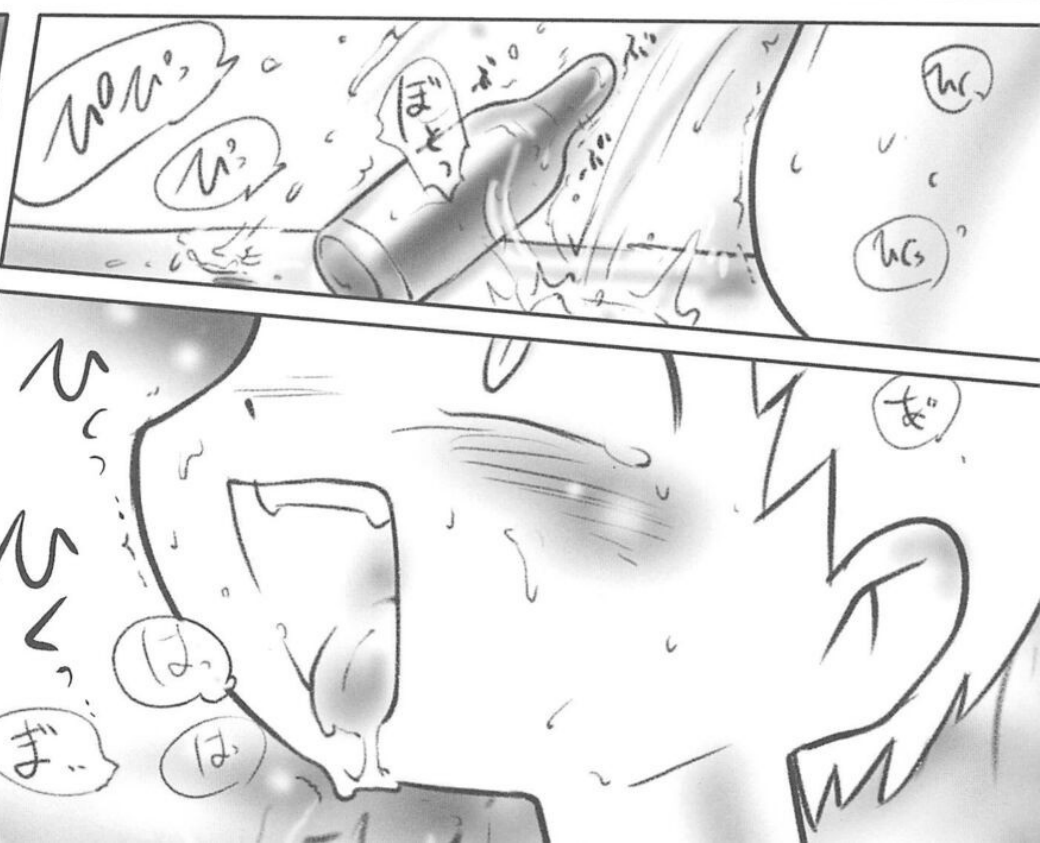
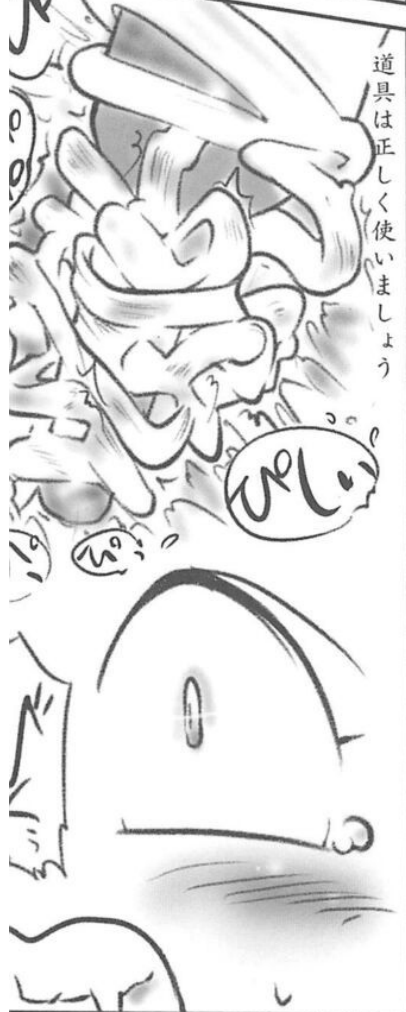












今日は宿題の写生をしに、街を歩いた。
よく見ればこの街にも、お山ほどじゃないけれど沢山神様を祭ってある。

でも、そんなに大事にされていないみたいで
ひどい所は、まるでごみ捨て場所みたいになっていた。

「世の中のものにはみんな神様が宿っていて、
それを大切にしないと罰が当たる」と教わった。

目に見えたりはしないけれど、神様はいて、
私達の生活にきつと何か関わっていると思う。

でも、そんな神様のおうちに
こんなにひどい事をされたら
この街にいる神様たちも嫌になっちゃうだろうな……







その日以来

私は視線のようなものを感じるようになりました。

お山で感じた水神様のと似ています。

勿論その姿は見えませんが、私が「恥ずかしい」と感じた時だけ現れます。

その視線を浴びると、

体中を刷毛でなぞられるような
たまらない「お恵み」が押し寄せます。

私が望んでいた刺激はこれでした。

はじめのうちは下着をはかないで街を歩いたり。

恥ずかしい格好で公園を歩くだけで

そのお恵みをもらえました。

次第に私が慣れてきたせいか、
少し「恥ずかしい」と思うくらいじゃ
その視線は私に訪れなくなりました。

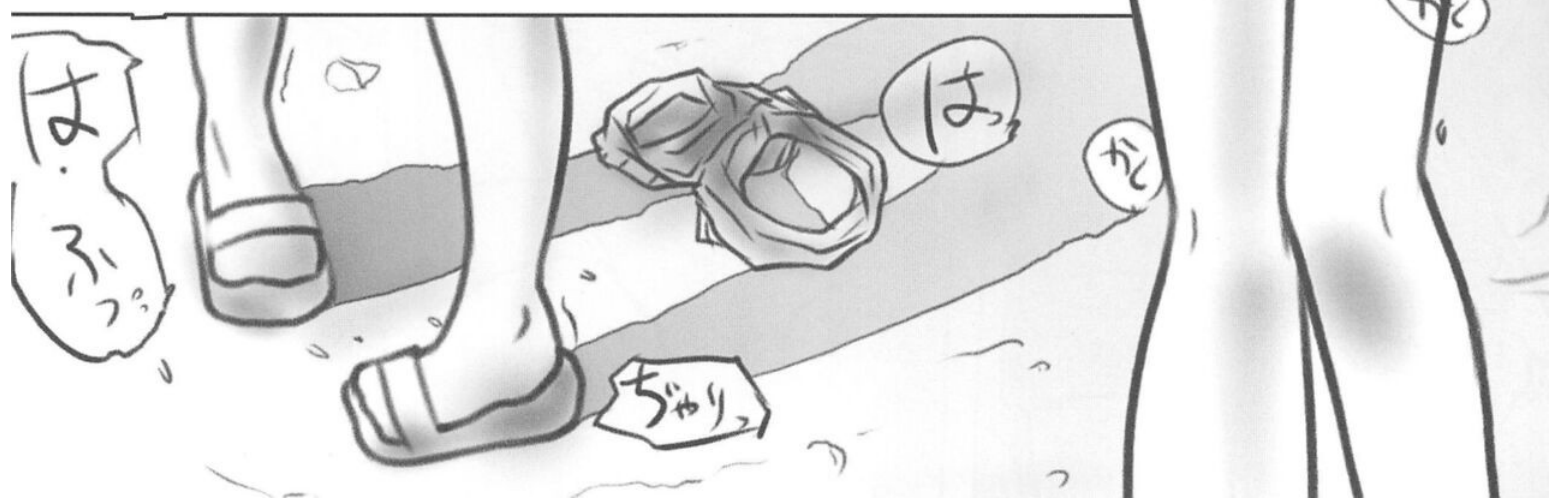
ふーん

うーん

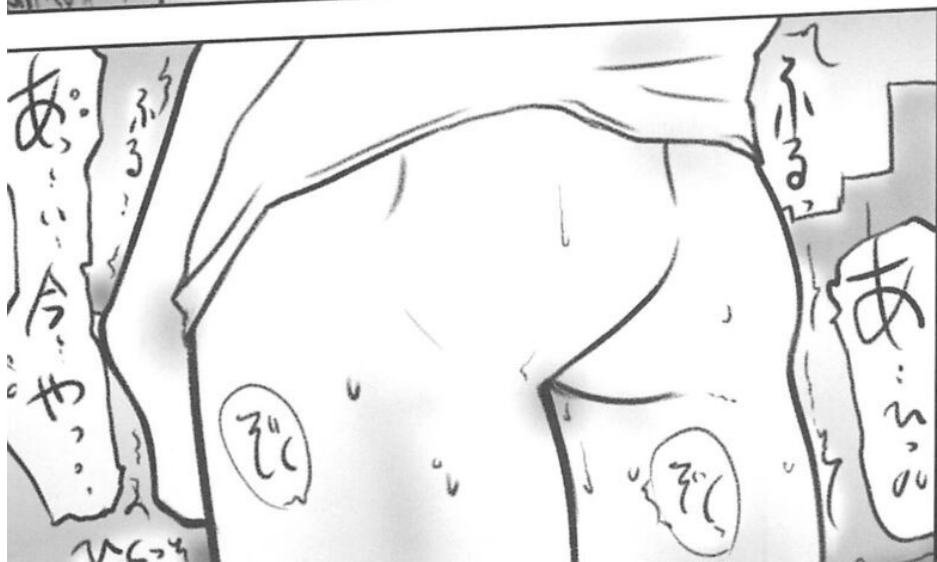
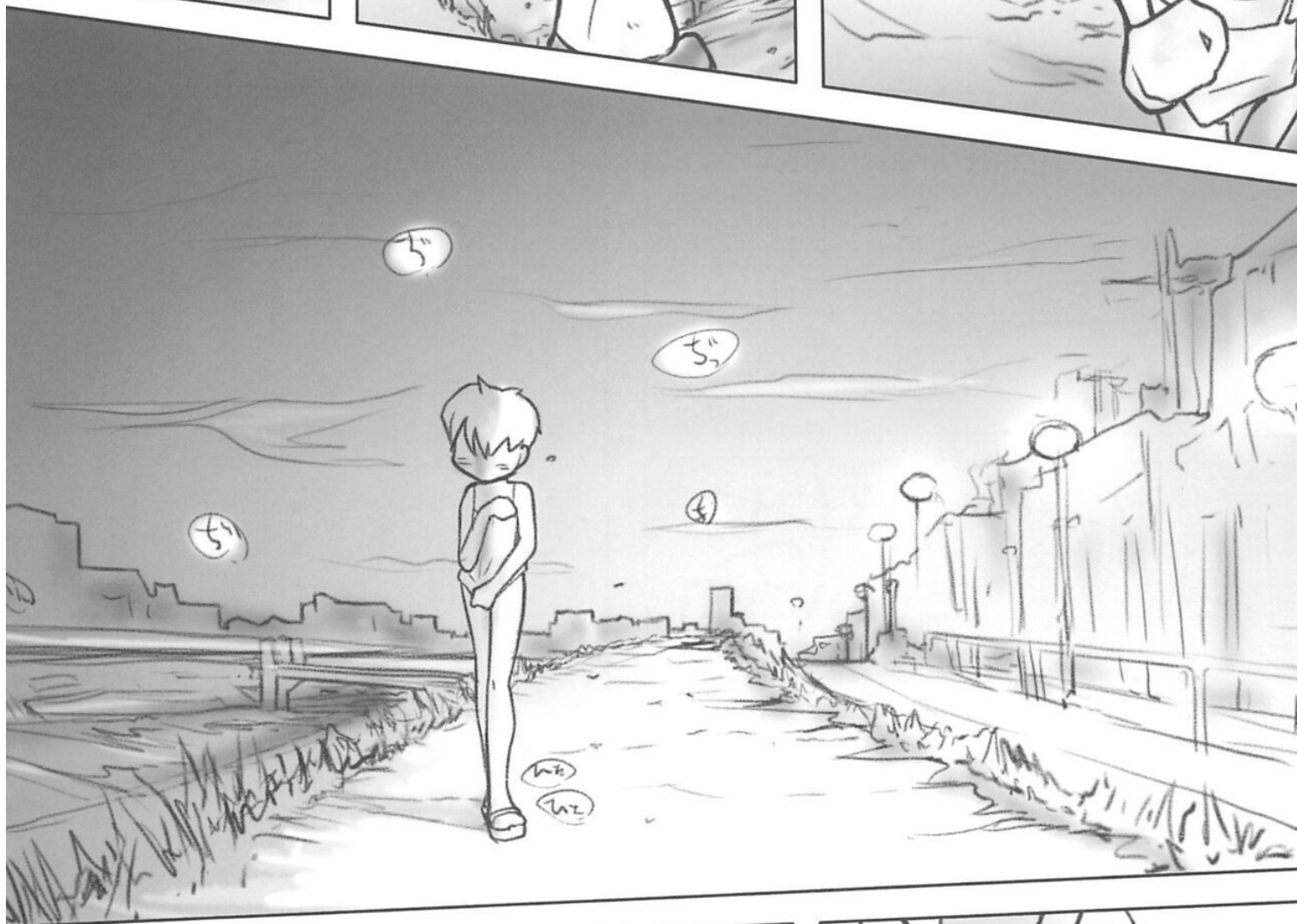
ふーん

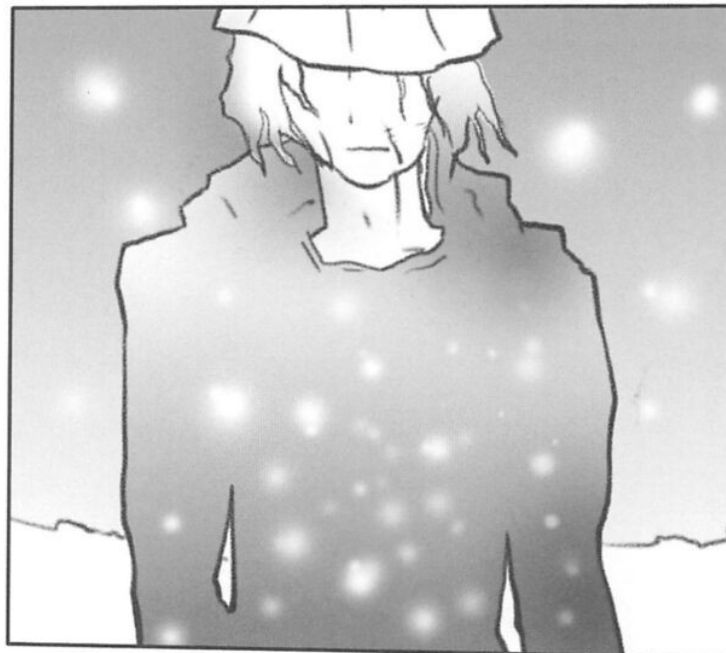
ふーん

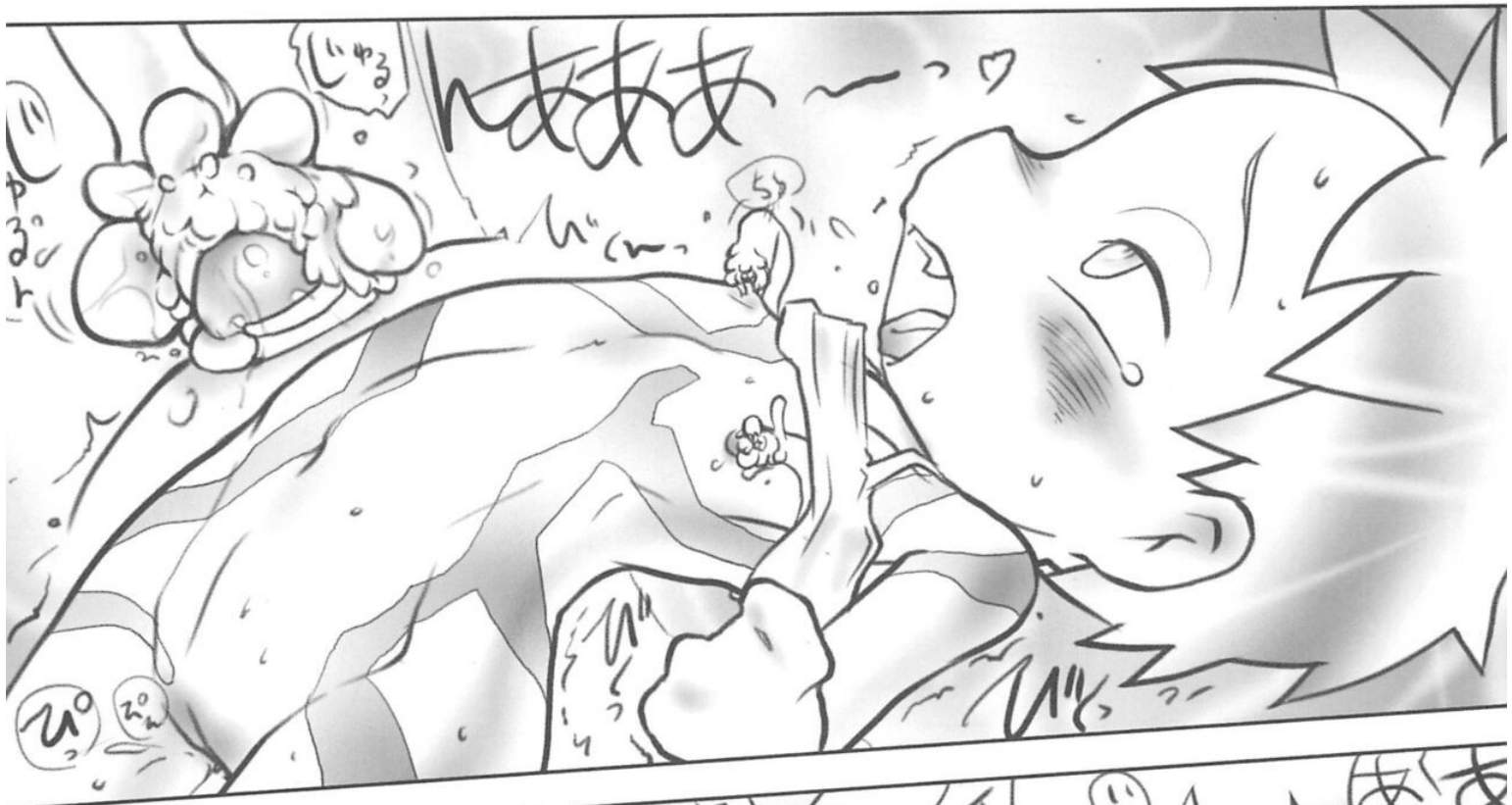
ふーん

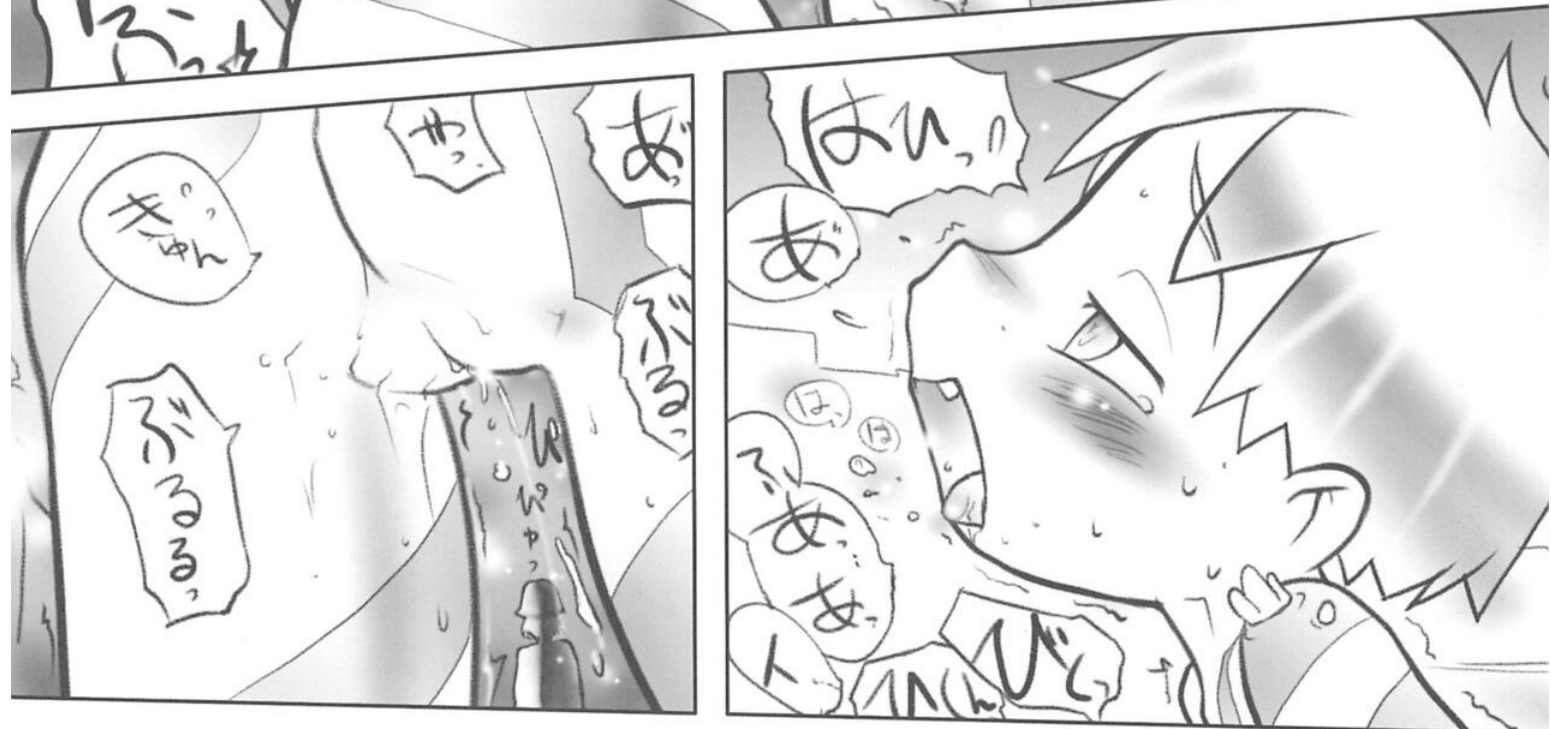




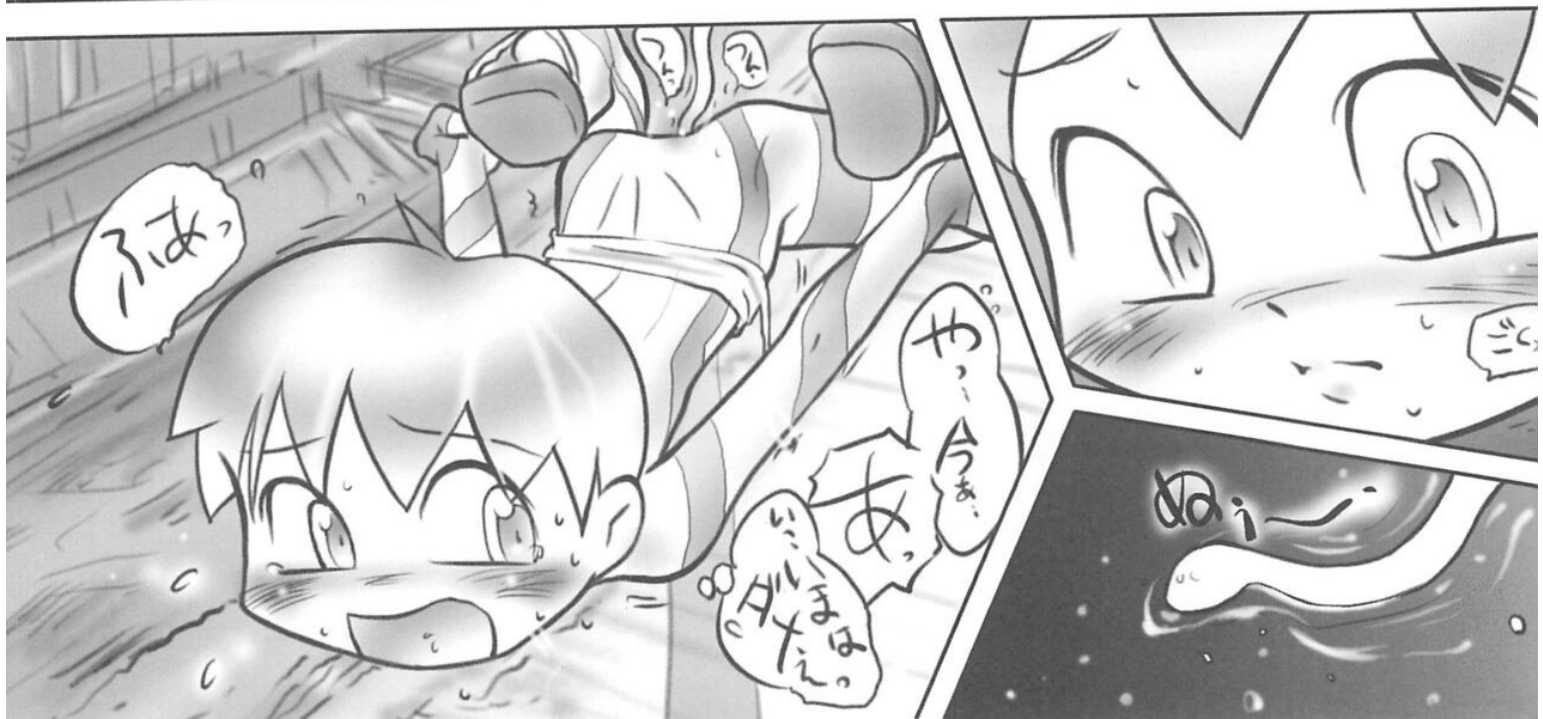
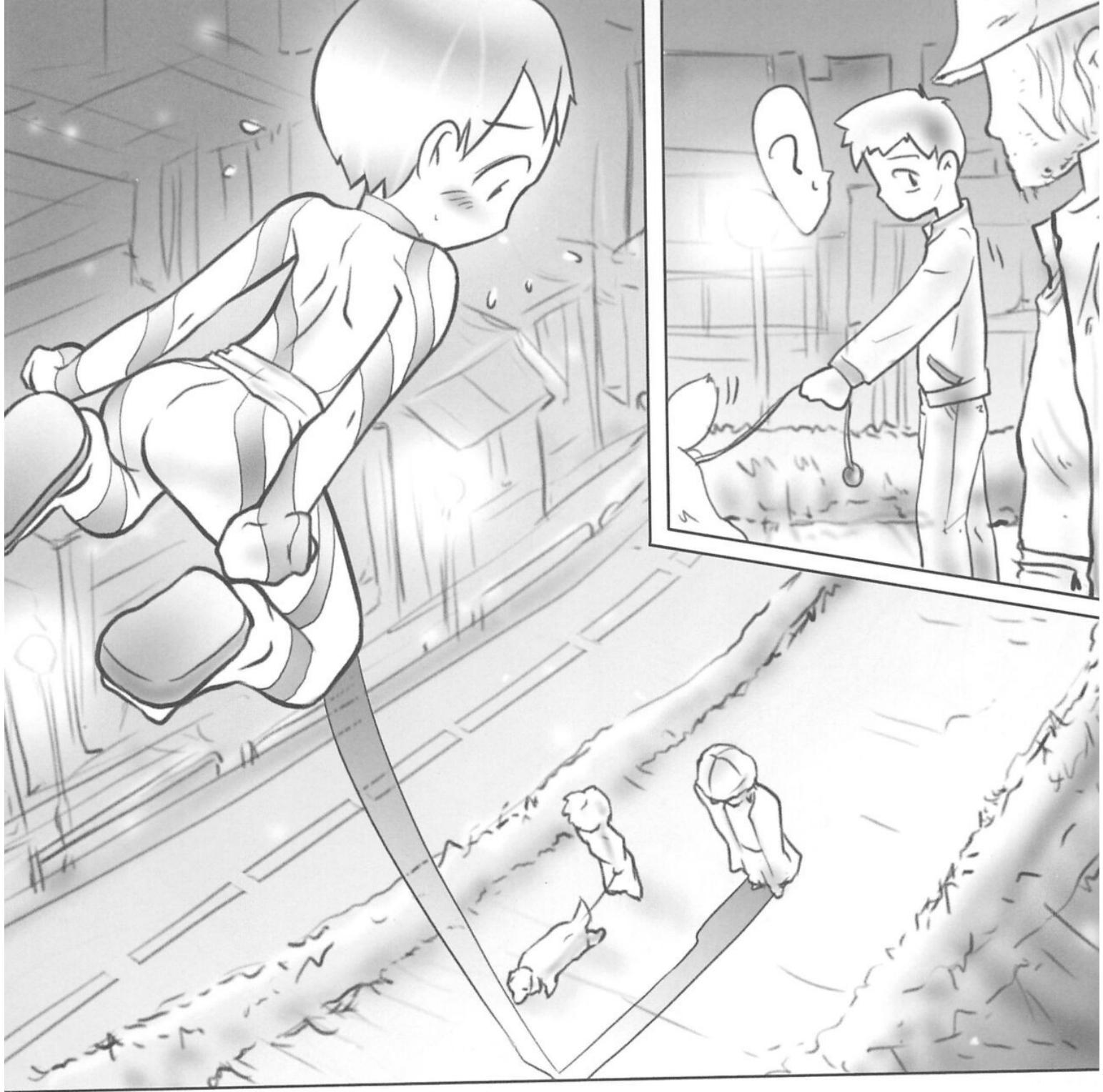




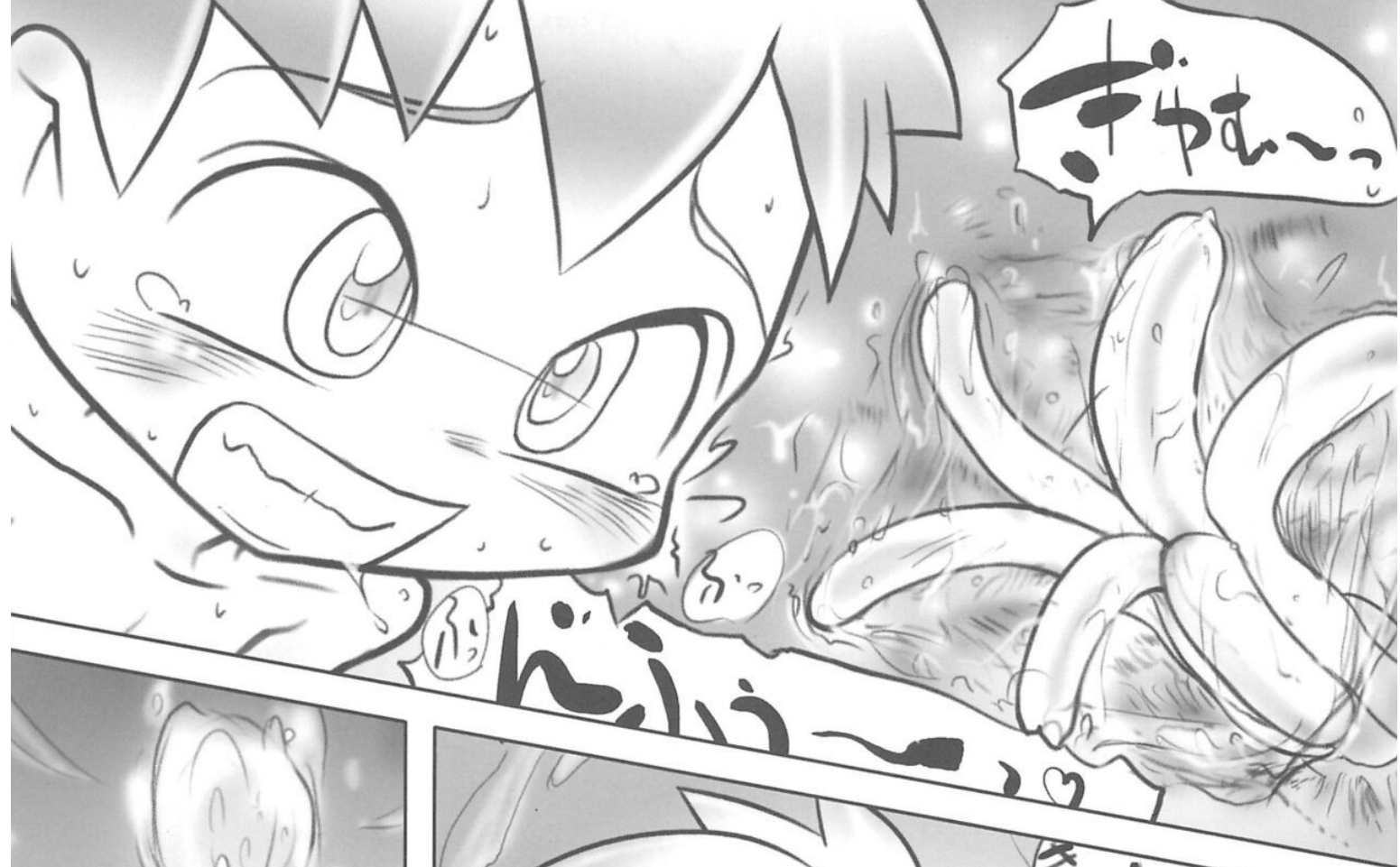






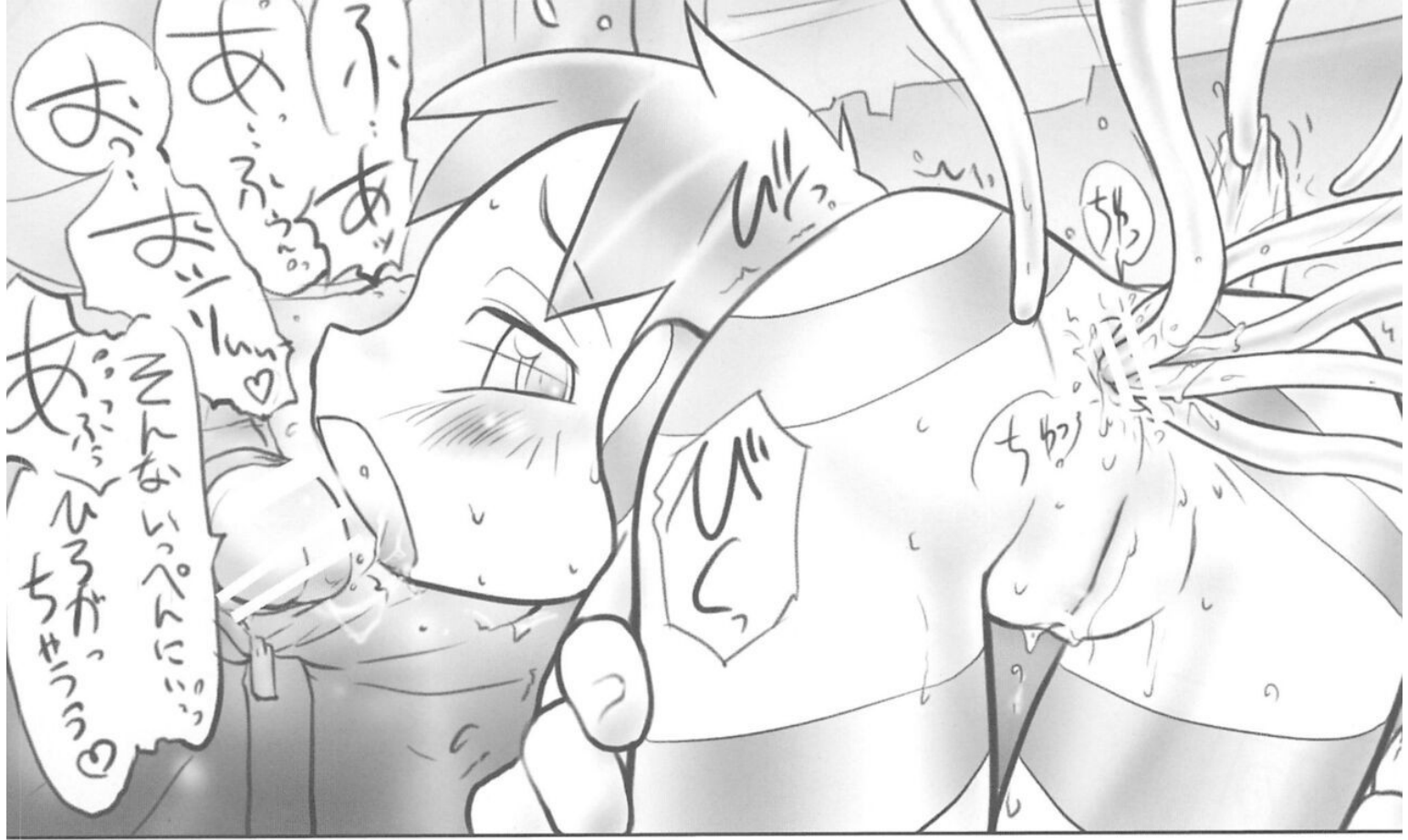


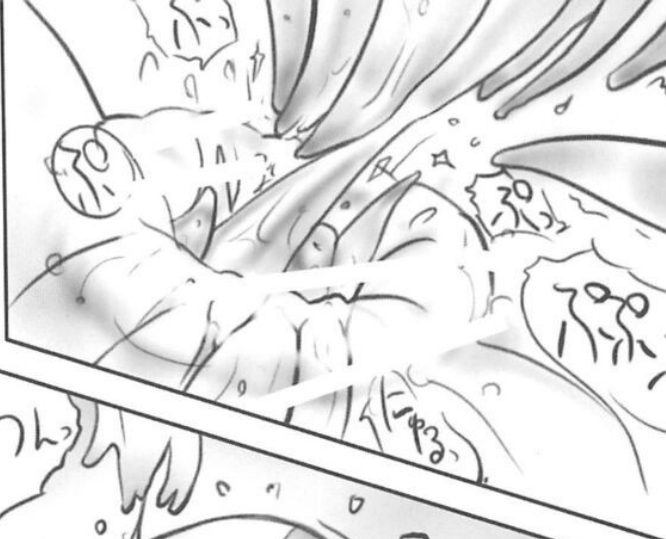
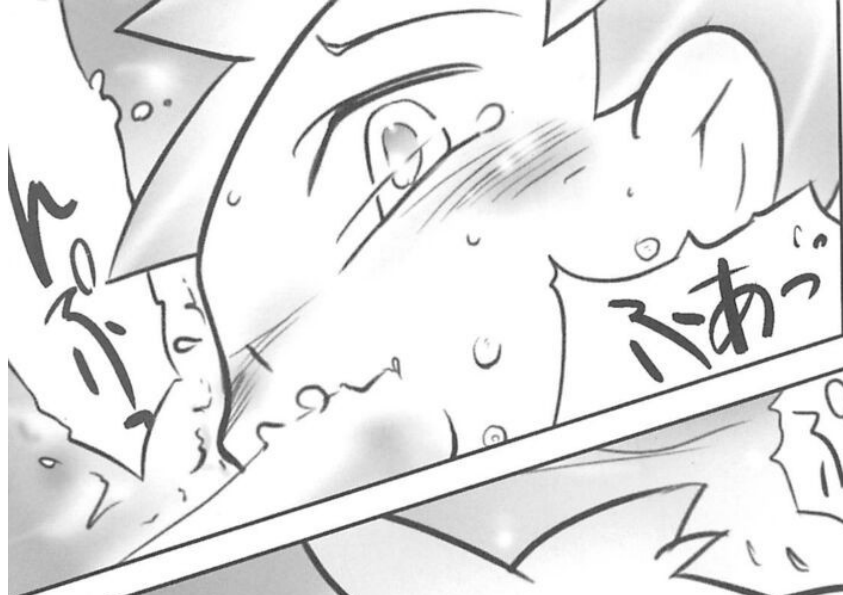












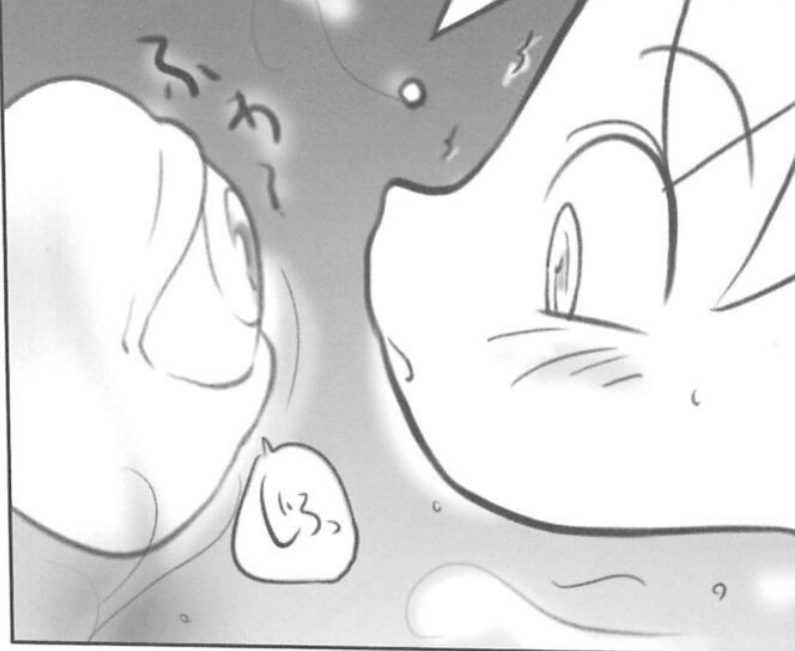








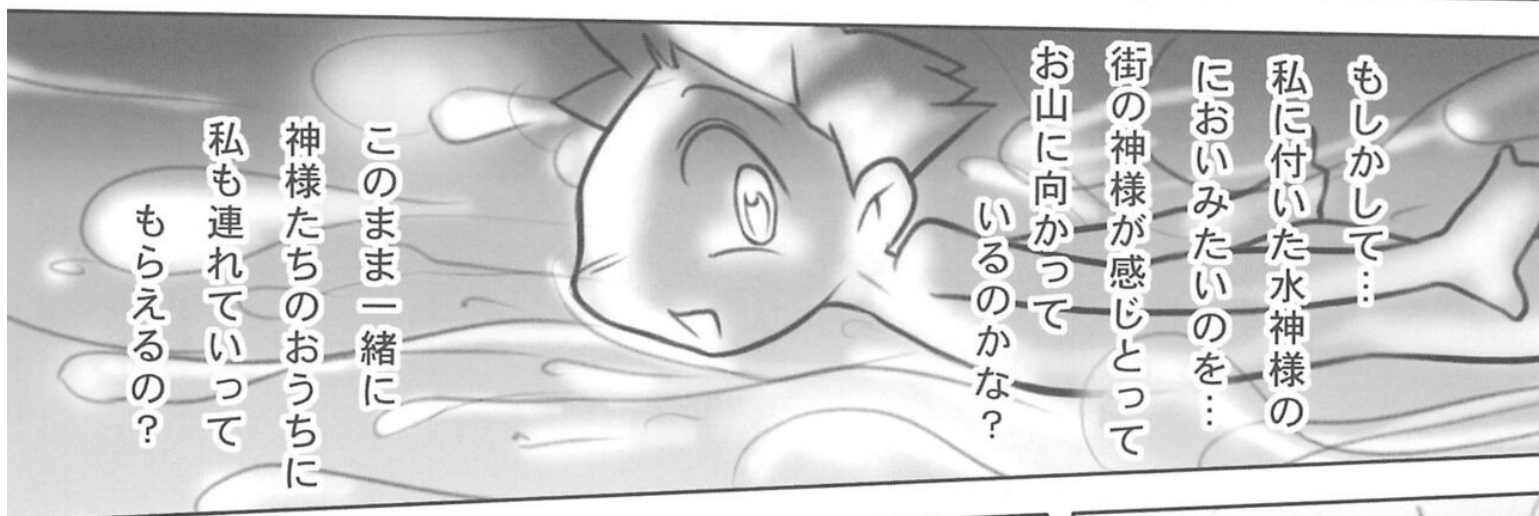




今の……
公園で会った神様だあ……

この光の川、
いろんな神様たちなんだ。

みんな、お山に向かってる……
神様達が本当のおうちに
帰っていくんだ……



もしかして……

私に付いた水神様の
においみたいのを……

街の神様が感じとって
お山に向かって
いるのかな？

このまま一緒に

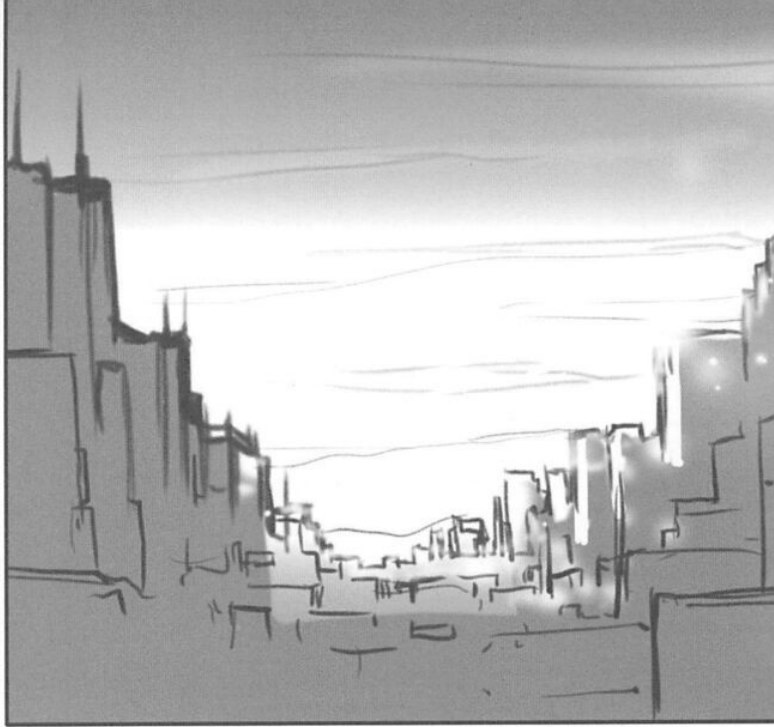
神様たちのおうちに

私も連れて行って

もらえるの？



だっ
っ







神様たちが山に帰った今も
女の子は神様たちが
帰ってくるのを
待っています。

[illegible]

■まずはこの本を手にとっていただいて、お読みいただいてありがとうございました。
そしてお疲れさまと言わせていただきます。

まず作者として「ごめんなさい」
ただただ長いばかりで変化も無く、延々とアレとゆーか、なんつうか変な事をし続ける
下らない漫画でごめんなさい。
読んでいて疲れてしまったかと思われる。

まあ何でこんなモノが生まれたのか、とりあえず経緯というか、言い訳なぞつらつら。
思えば05年の夏に3年ぶりにコミケに珍しく通り、初のオリジナル漫画を書きました。
「水神詣」という奴です。 今回の本はその続編です。
イラストや挿し絵的なものはそこそこ書いた事だけはあるものの、殆ど「漫画」という書式を書いた事が無く
結構苦労しながらも、個人的には気に入ったものが書けたような気がしました。当時は。

して、翌年にさっそくその続編を書こうとネームって奴を切り出したんですが、これが終わらない。
かりかり書いて、確か40P超えた所で冬のコミケとなり、急きょ代替えのブツを書いた記憶があります。
そんな風に、負の連鎖とでも言いましょうか。
どんどん本編には色々な要素を（ようは攻めですね）はふくらむ一方。
モノを作ろうにも増築をくり返すように50P超えの作品となっていき
ただ長いだけの駄作という体となってしまう、このまま封印してしまおうかと思っておりました。

しかしまあ、2回程冬コミに2次創作を書いたのですが、やはりオリジナルが書きたい。
そんな事を思っていた矢先、たまたまなのですが五月末のぶにけあたりで知人連中とバカ話した
二日酔いの朝。 いっちゃん苦労してた部分のネームが切れて、実質3年越しの原作が出来上がりました。

それを待っていたかのように、今回の夏コミの当選通知が来た訳です。
もう流石にこれ以上引っぱれないという訳でハラをくくり、製作にとりかかりました。

で、まあ。
毎度の事です。。。
おっぱじめた途端に大きな地震がありまして、本職のほう洒落にならなくなり、
そのまま必死な行程となりました。
これを書いている今もセミ徹夜でございます。
故に文が妙なテンションですいません。
さておき。え〜と。
色々説明というか突っ込みというか……

毎回そうですが、私台詞を手書きでよくやります。
よみづらくてすいません。
活字にしたいのですが、吹き出し内にうまく納まらないというか
雰囲気伝わりにくいんじゃないかという訳で、相変わらず手書きです。
消して原稿手書きだからという訳ではありません。一応パソコン使ってやっとります。

あと、背景とか色々、どう見ても（コマ割は別として）おめー、定規使ってないだろ？
と、まさしくその通りで。 全部フリーハンドです。
たまにタブレットに定規あてて書いてます。ええ、洒落抜きに。
これもまた、なんというか、いかにもパソコン使って書きましたのが嫌いだからでもあります
すんません。

え〜と、今回見ての通り、書き始めと書き終わりの間に3年の月日が経っており
（ペン入れたのは一気にやったんで、あまり差が無いかも知れませんが）なんつーか、微妙に
女の子の雰囲気が違ったりします。 まあ笑ってやって下さい。

それと、本編に出て来る「神様」ってのは、普通我々が意識している「神様」とはちょっとニュアンスが
違いまして、どっちかっていうと「異次元の生物」って感じです。
人間や世の中のものとは物理的に違う世界にいるのですが、興味があれば干渉してくるような存在。
蟲師の『蟲』みたいな生命の根源にある、物理現象を超越したようなもの、なイメージです。

また、後半で浮浪者のオッサンに神様がやどりついて女の子にアレするシーンで出て来る（？）
影を使った拘束は中々気に入ってます。何かのマンガで見た記憶があるような無いような。
絵ヅラのにもボディペイントっぽくなるんでエロく見えるかと期待したのですが、
作業的に辛くなるばかりであまり効果が出なかったかも知れません。
ちなみに影の中からはどんなモンでも出すのが自由なので、女の子のアソコにぴったりと張り付き
内側に向けてナニを出し入れするというプレイも思い付いたんですが、絵的に難しいので止めて
おきました。
あと川原で散歩の犬とのシーンで神様が犬にとりついて、わん子と何ってのも考えましたが
なんか別のマンガになっちゃうのでやめときました。
つうか動物俺書けねえし〜

あと、夏に通ったのって2002年、2005年。そして今年の2008年。
3年サイクルじゃね？ で、私が通る年はほぼ身内全員に近くが通ると言う怪異。
むう。
で、今何となく昔の原稿見てるんですが、……、
3年前の俺の方が、いろんな意味で上手くねえか？！ ('A')
という訳で、年々劣化する傾向に來てしまっているような私ですが、
この作品を少しでも楽しんで頂ければ幸いです。

お疲れ様です〜



発行：2008/08/17
発行者：原 浩
連絡先：body3@db3.so-net.ne.jp
印刷：ねこのしっぽ様



Studio
AbunoCulture